

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あっぶる		
所在地	宇部市昭和町一丁目9番3号		
電話番号	0 8 3 6 - 3 5 - 7 6 8 9	事業所番号	3570200703
法人名	医療法人 仁心会		

訪問調査日	平成 21 年 12 月 14 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	17 人	常勤 6 人 非常勤 11 人 (常勤換算 11.8 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 ~ 3 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 35,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	150 円	昼食	650 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
その他の費用	月額	9,500 円		
	内訳	光熱水費 6,500円 . 寝具清掃及び洗剤等 3,000円		

### (4) 利用者の概要 (12月14日現在)

利用者数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
	要介護 1	6	要介護 4	1	
	要介護 2	5	要介護 5	0	
	要介護 3	5	要支援 2	0	
年齢	平均 86,8 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 南園クリニック・仁心会病院 歯科 ほかお歯科
-------------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

2ヶ月に1回事業所独自の勉強会を開催され、個人情報保護・高齢者虐待防止・誤薬・意識消失(実技訓練)などを学んで、職員の質の確保、向上に向けた育成に努めておられます。また、地域住民として自治会に加入され、公園のゴミ拾い・落ち葉の掃除などを利用者と一緒にしたり、小学校行事に参加され、災害時には事業所が地域の方の避難場所となることを承諾するなど地域との交流や連携に意欲的に取り組んでおられます。

### (特徴的な取組等)

運営推進会議には他事業所の施設長や管理者が出席され、意見や情報交換をされてサービスの向上に活かされています。管理者も他事業所運営推進会議に参加されています。医療連携体制をとられ24時間在宅総合診療で訪問看護も受けることが出来るなど利用者や家族の安心・安全が守られています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

非常勤職員の研修機会について検討し、事業所独自の勉強会や復命で学んでおられます。介護計画の見直し時の家族との連携については必要が生じたら家族の意見を聞き計画に反映するよう努めておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

管理者は職員に評価の意義を説明し理解を得て、自己評価書を全職員に配布し記入してもらい管理者がまとめておられます。職員からケアに対する気づきや振り返りになるなどの意見が出されています。

### (運営推進会議の取組状況)

メンバーには民生委員、自治会長、他グループホーム施設長等、第三者委員、市職員、家族と利用者等を迎え定期的に開催し、行事や活動報告、消防訓練、外部評価結果の報告と意見交換等を実施しておられます。また、運営推進会議議事録、年間行事活動報告を家族に配布して意見、要望を出してもらえよう努めておられます。

### (家族との連携状況)

2ヶ月ごとに発行される「あっぶるだより」に行事計画や生活ぶり、利用者の声などを掲載し金銭出納明細書と共に家族に送付されています。家族会等家族の来訪時に意見や要望を聞かれ、利用者の近況報告を行い、来訪できない家族や緊急時は電話で報告されています。

### (地域との連携状況)

自治会に加入し、回覧板を回したり、地域内の担当部分の草取りや落ち葉の清掃、公園のゴミ拾い、校区内の行事(納涼祭、芸能祭、餅つき等)、小学校行事等への参加、地域のボランティア来訪を多く受け入れるなど地域の人々との交流に努力されています。また、災害時には事業所が地域の方の避難場所となることも承諾されています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域との交流の中、その人らしさを大切にし優しさとぬくもりのあるケアを行います。」と全職員で検討し、見直しをして独自の理念を作成している。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関、スタッフルームに掲示したり、名札の裏や日報のバインダーに記載することで、職員間の共有を図り、具体的ケアについてミーティングで確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し回覧板を回したり、地域内の担当部分の草取りや落ち葉の清掃、公園のごみ拾い、校区内の行事(納涼祭、芸能祭、もちつき等)や小学校の行事等への参加、地域のボランティア来訪を多く受けいれるなど地域の人々との交流に努力している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義を説明し、職員全員が自己評価を記入し管理者がまとめている。ケアに対する職員の意識の反省機会となり外部評価結果はミーティングで1年かけて改善に取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーには民生委員、自治会長、他グループホーム施設長や管理者、第三者委員、市職員、家族と利用者等を迎え定期的に開催し、行事や活動報告、消防訓練、外部評価結果の報告と意見交換を実施している。運営推進会議議事録、年間行事活動報告書を家族に配布して意見、要望を出してもらえよう努めている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	社会福祉課、介護保険課、高齢福祉課との情報交換をしたり、相談、助言を受けて、利用者一人ひとりに合ったサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月毎に、「あっぶるだより」で行事計画や生活ぶり、利用者の声などを掲載し金銭出納明細書と共に家族に送付している。家族会等家族の来訪時に意見や要望を聞いたり利用者の近況報告を行い、来訪できない家族や緊急時は電話で報告している。また、運営推進会議の議事録と年間行事の活動報告書を家族に送付し意見、要望を会議で出してもらうようにしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	来訪時や電話、運営推進会議などで意見、要望を聞くよう努めている。また、家族だけの会議を開催し意見の出せる場を提供して、意見、要望を運営に反映させるよう努めている。家族等の相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員、外部機関を明示し苦情処理手続きを明確に定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤11名の職員体制で、行事等には話し合いで職員を増員したり、利用者や家族の状況の変化、要望があった場合は管理者や休暇の職員に依頼するなど職員間で勤務調整をしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職はほとんどなく法人内の異動は最小限に抑える努力をしており、異動の場合は日勤3～4日、夜勤3回の重複勤務期間を設け、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所独自の勉強会は2ヶ月に1回開催している。段階的に外部研修を受講しミーティングで概要を伝達、回覧し共有するなど研修機会を多く与えている。資格取得希望者についても研修を勧めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	系列のグループホームとの合同勉強会や地域のグループホームと交流し情報交換をしたり、他グループホーム管理者に運営推進会議メンバーとして参加してもらい情報交換をするなど日常のケアの向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>職員が施設に出向いて面接したり、本人と家族に事業所のおやつ時間を見学してもらい入居者と一緒に過ごしてもらうなど、家族と相談しながら事業所の雰囲気に馴染める工夫をしている。体験入所も出来る。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>らっきょうのつけ方、梅ジュースや干し柿の作り方などを教えてもらったり、食事の準備、花植えなど日常生活を通して生活の知恵を習い、「すみません」「ありがとう」の言葉をかけあうなど学んだり支えあう関係づくりに努力している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中の言動、表情で把握している。特に夜勤時に聞いた話などを業務日誌に記載し、一人の意見や考え方で決めてしまわないよう、家族の意向を伺いながら、ミーティングで利用者本人の生活を話し合っている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の思いや家族の要望を聞くように努め、日々の個人ファイル記録などから月1回のカンファレンスで話し合っ、それぞれの意見を反映した計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しを原則としているが、毎月実施しているカンファレンスで評価したり、変化が生じた場合は家族の意見を聞き、その都度見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を活かして受診の付き添い、月2回の訪問看護支援、入院時の支援、買い物や理容院の送迎など個別の外注支援など柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医や本人、家族の希望するかかりつけ医の受診に、家族と事業所、医療機関は常に情報を伝達共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成しており、入居時に説明し、早い段階から本人・家族・医師等と繰り返し話し合いを行い協力医療機関や他施設にスムーズに転居できるように努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護の勉強会を事業所で実施しており、自尊心を傷つけない言葉かけについて管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。個人情報の記録等は事務室の所定場所に保管し、取り扱いに配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは概ね決まっているが、その日の体調、気分で、食事時間、入浴、レクレーションの内容を工夫し、散歩、ドライブなど、一人ひとりのペースを大切にして支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材、献立は配食サービスを受け、調理は事業所で利用者と一緒にしている。盛り付け、お茶入れ、茶碗洗い、食器拭き、下膳なども一緒にしている。職員は同じものを食べながら利用者それぞれの雰囲気大切に会話しながら楽しそうに食事をしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことのできる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は日・木曜日以外の14:30～18:00に入浴可能で、希望の時間に入浴でき、季節を感じる入浴剤やゆず風呂、みかん風呂などゆっくり楽しめるよう工夫している。日曜日は陰部清拭やシャワー浴にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作り、花作り、掃除、タオルたたみ、洗濯物を干したり、たたんだり、干し柿、梅ジュース作りなど利用者の知恵や経験を発揮できる場面をつくり、体操、カラオケ、ぬり絵、貼り絵、風船バレー、買い物、計算ドリルなど一人ひとりに応じた楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	公園の花壇の水やり、ウインドウショッピング、買い物、外食、散歩、地蔵様参り、四季の花見など、利用者のその日の希望にそった外出支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成しており、マニュアルにそって事業所勉強会を実施し、職員は拘束について理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。利用者の見守りと様子観察をすることで、居室や玄関など日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生予防に関するマニュアルがあり、ヒヤリはっと報告書を整理し回覧をしたり勉強会をしているが、一人ひとりの事故防止について職員間での検討が十分ではない。	・一人ひとりの状況に応じた事故防止の検討
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	発生時対応マニュアルを作成し、事業所で2ヶ月に1回看護師を講師とした救急時の対応等の勉強会を実施している。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害発生時対応マニュアルを作成しており、消防署の協力を得て、年1回の避難訓練(夜間想定訓練を含む)や消火器使用訓練を実施し、避難場所は前の公園となっている。事業所は災害時の一時的避難場所の提供をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬の情報をファイルし、薬箱の蓋に貼って、薬の副作用や効用、用量の把握に努めている。管理者が配薬を確認し、薬は手渡し服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケア(声かけや見守りで歯磨き、又はうがい)の支援をしている。義歯の洗浄や歯ブラシの消毒は週2回実施している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの食事量、水分量を業務日誌に記録し、1日の摂取量の確認をしている。栄養バランスは管理栄養士の指導を受け、おにぎり、粥・刻み食等利用者に合わせて提供している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症まん延防止マニュアルがあり、手洗い、うがいの励行、利用者職員とのインフルエンザ予防接種の実施、手拭タオルの1回のみ使用、手すりやトイレのノブなどの2日に1度の消毒など予防対策をしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂兼居間は明るく温度や換気に配慮され、フロアーから離れた空間にテーブルとソファ、窓辺に椅子が置かれ、廊下には利用者の写真、絵手紙、貼り絵などを掲示している。クリスマスツリーや昭和期の電話、人形などが飾られ、事務室や台所に立つ職員の姿も見渡せ、生活感や季節感が感じられ、安心してゆったりと過ごせる環境に工夫されている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るい部屋に、雑誌、日本人形、ぬいぐるみ、造花、ガラス机、椅子、衣装ケース、タンス、鏡など使い慣れた物や好みものを置き、備え付けでベッドサイドのスタンドと見やすい時計が設置され居心地よく過ごせるように工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	ケループホーム あっふる
所在地	宇部市昭和町1丁目9番5号
電話番号	0836-35-7691
開設年月日	平成13年4月/日

## 【サービスの特徴】

法人の母体が医療機関であり、24時間の医療連携がとれるため、健康面の管理がしっかりとしています。

ホーム内では、利用者様のその人らしさを大切にできるよう、職員間で話し合いながら、ご本人の望みを引き出せるように心がけています。そして生活の中にぬくもりと笑顔で過せる時間が少しでも多くあることを願って、地域の方との交流を大切にし、様々なボランティアの方との交流も深めています。

## 【実施ユニットの概要】 (11月30日現在)

ユニットの名称	あっふる /					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名	男性	名	女性	9 名	
	要介護1	4		要介護4		
	要介護2	4		要介護5		
	要介護3	1		要支援2		
年齢構成	平均	86 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価票を、各スタッフに1部ずつコピーして渡し、記載してもらい、管理者がそれをまとめて記載しました。未記入部分は、意見を確認するよう努めました。
評価確定日	平成21年11月28日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	地域との交流のもとで、その人らしさを大切にしながら暮らし続けるよう、独自の理念を職員で作りあげ、実践中です。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
	日々の届く位置に掲示し、ミーティング等で確認しながら取り組んでいる。日報のインタビに掲示。		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
	重要事項説明書の事業の目的と運営方針を讀んでもらっている。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
	互いの善悪は理解し、評価を活かしながら、職員でミーティングを行い、運営者と管理者との話し合いも行っている。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
	運営推進会議と地域への行事への参加時に対話ができる機会ができていて伝えられている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようとする日常的な付き合いができるよう努めている。		
	近隣の散歩等で挨拶を積極的に行うよう努める中、気軽に声をかけ合える事が増えている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
	自治会への加入で回覧板のやり取りや、地域内での担当部会の運営、落ち葉の掃除を行い、校区内の行事には(納涼祭、芸能祭もらっま祭)出席させてもらっている。		
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		
	運営推進会議の際に、地域内にある公園にゴミが多く、自治会の役員だけでは大変な事をうかがって利用者さんとスタッフで散歩に出かけた際、公園のゴミ拾いを無理のないようにさせてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、外部評価の結果はミーティングで報告し、評価されたことを参考に案を出して取り組んでいる。	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	活動報告書と議事録をご家族へご配布することでご家族からの意見も頂けるようにして、サービスに活かせるよう努めている。	
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	基準省令に基づく運営方法について、相談をさせて頂くことがある。又、入居者様で、市の担当職員からいらっしゃる方があり、その場で相談に応じてもらっている。	
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	昨年、金銭管理を権利擁護事業で行う利用者様がいらっしゃり、制度を学ぶ機会となった。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフの勉強会で資料を配り、事業所内で、特にスピーチロック等には気をつけるよう努めている。	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族に疑問に思うこと等があれば、いつでもスタッフに尋ねて頂くよう、お伝えしている。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見、不満、の思いがある時は、ご家族へ報告と相談を行い、スタッフは、その都度話し合いと、その利用者の思いを共通認識するよう努める。	
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	運営推進会議内で報告をする場合と、ご家族来訪時に個別の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	利用者の日常生活を記載した個人ファイルは要望に応じて読んでもらっている。外部評価等の資料は、スタッフルーム前に自由に見てもらえるようフョイリンクしている。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	今年の9月に、ユニ→トの家族向けの会議を開催しました。この意見をできるだけ実施できるように努めている最中です。苦情受け付け窓口担当者を施設内に掲示しています。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやミーティング等で、意見を聞けるよう努め、運営者に相談が必要な時は報告している。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	施設での行事を含め、急な長時間の受診にも職員間で調整しています。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職に対しては1ヶ月前に報告をもらう。 異動は最小限に抑えられていて、代わるスタッフと次の新スタッフの勤務が重なる期間を設けてもらいました。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者は、職員研修の機会を提供して下る。管理者は、スタッフの勤務年数とその方に応じた研修をすすめている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	40才～60才の女性スタッフで、様々な経験をもっているため、利用者への対応は、それを活かしていると思う。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近い土地でのグループホームの施設長さん、運営推進会議への参加を通して意見交換をしたり、ボランティアの紹介をもらったりという事があまる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、管理者やスタッフの相談にいつでも応じてくれる。又、年に1回、スタッフの親睦会を設けるよう費用を予算化している。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況を把握している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	評価は好めてもらえる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居されるまでに1度、お茶等を一緒にしてもらう機会を作るか、面会に行かせてもらうかして、受け取る努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	電話連絡や来訪時に、こちらから、何かないかをお尋ねするようにしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族とご本人のお話の中より、他のサービスも必要と感じた時にはお伝えする。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族と相談の上、入居者の見学や、おやつ時向に来訪して頂く等、雰囲気は馴染んでもらえるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事の準備を通して、相談したり、教えて頂いたり、又、ご本人の昔話して他者を含めて談笑する等の関係ができています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p>〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p>〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p>〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の中の関わりを通して、ご本人の気持ちとくみとるようにし、ご家族にも報告し、話しを聞いてからスタッフ全員かミーティングで意見やアイデアを考慮を取り入れている。	
42 (17)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度、変化が生じた時には、スタッフ内で話し合い、現状に合わせたケアを随時行ってみて、見直しを行う。	
43	○ <u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに記録し、情報を共有して見直しに活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物や理容院への同行、送迎。又、他科の受診同行や入院時の準備等、ご家族の要望に応じた支援している。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の方に来てもらう避難訓練や派出所の方に話しをしてもらう。又、月に定期的に来訪して下さるボランティア団体は4件ある。	
46	○ <u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	実施できていない。	○ 校区内の団体に文書を作成してご協力を呼びかける
47	○ <u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	要望がある時を含め、老健への申し込み、福祉道具の手配等の支援を行った。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	スタッフ間で協力して、文対応したり、ミーティングで話し合い、気をつけている。	
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活の中で、できるだけ、何をしたいか話をせるような声掛けをするよう努めている。	
58	〇“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	各々の利用者の状態に合わせて、又、利用者の得意とされている事が発揮してもらえるように、できる力を大切に支援するよう努めている。	
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各々の利用者の希望を尋ねたり、体調を考慮して食事時間や入浴、レクリエーションの内容等を工夫するよう努めている。	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族と今までの行きつけの店に行かれる方もいるが、ほほホームの近くにある理容店に行かれる。	
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立から、少しでも好みに合うように、焼き方煮え方を工夫する。準備は個々のカに依り、下ごしらえ、盛り付け、お茶入れ、洗い物、食器拭き等、自発的にしてもらっていることも多く、スタッフと楽しんで行っている。	
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	お時間のあやちちで日替わりで用意。本人の購入、又はご家族の持ち込みで、おやつを個人でもっておられる方は多い。飲み物は、4種の中から状況に合わせて選んでもらう。	
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各々の排泄パターンを理解し、又、その日の生活リズムを考慮して、気持ちよく排泄できるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p>〇入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴は、日、木、以外の14:30~18:00の設定をしている。その中で入浴の希望や順番は、ご本人の意見をきいて、ゆっくり楽しめるように支援に努めている。</p>	
65	<p>〇安眠休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>	<p>昼夜の逆転にはならないよう気を配って、あとはご本人の状況に応じて安心して眠れるよう支援している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>生活歴や好きな事等までできるだけ理解し、個人の方の生活に張り合いがもてるよう、外出、買物、神社参り、プランター等での植物を育てること、又、食事作り、お茶入れ、掃除などで、活躍できる場面づくり(楽しみを増やした)、(タオルたたみ等)をしている。</p>	
67	<p>〇お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買物時の支払いができる方が2人、お金の所持については一人ひとりの状態に応じて、ご家族と相談して所持してもらっています。</p>	
68 (26)	<p>〇日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>近くへのお土産様のお参りや宇部港へのドライブ、スーパーへの買物、衣類や化粧品をみたりするショッピング場所等、できるだけ希望にそって外出への支援をしている。又、ご家族の協力が得られる方には、お願いもしています。</p>	
69	<p>〇普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>約1ヶ月に1回、ユニット全員での外出を企画。又、地域の行事の見学や参加等、利用者の希望を含め支援している。</p>	
70	<p>〇電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人自らできる方は、いらさなくても、状況を観て、スタッフより家族へ電話連絡し、お話をしてもらう支援をしている。</p>	
71	<p>〇家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族の方には、ご本人の馴染みの方たちの訪問も気軽にして頂いて構わないことを伝えていきます。訪問時は居室等で、ゆっくり過ごしてもらったり、イスやお茶の用意をしています。</p>	
72	<p>〇家族の付き添いへの支援</p> <p>利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>	<p>現在は全くないですが、居室での宿泊が可能なことは伝えていきます。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に2回、母の日と敬老の日に合わせて、ご家族と利用者様と一緒に昼食を食卓に行く企画を毎年計画して実施しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	資料の用紙あり。今年9月に、2ユニットのスタッフで、勉強会を実施し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいます。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中居室や玄関、窓(バルコニーに出る所)に鍵はかけていない。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りと様子観察の大切さをスタッフ間で理解し、安全に配慮している		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態をみて、(ハサミ等)そのおにに応じた取り組みをしている。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	2ヶ月に1度、緊急時の対応についてスタッフの勉強会を施行している。看護師1名に指導をもらっている。	○	11月より、スタッフ各々の介護事故防止に向けてのチェックリストを作成。月に1度のチェックをし、意識を高めています。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	夜間想定避難訓練を施行。又、11月に、施設内の壁やトイレで意識消失した時の初期対応の訓練を行った。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	その都度、報告書に改善策を記し、全スタッフが理解するようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得ての避難訓練を実施。 避難場所は日頃から確認している。	○	地域の自主防災の準備が整った時には、一緒に訓練させて頂くように自治会長さんへお願いしている。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	疾病から起こりうるリスクや内服薬や運動機能の低下等から起こる転倒事故等についての説明はしている。	○	抑圧感のない暮らしということの対応策を具体的にスタッフと話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回のバイタル測定と、異変を感じた時には速やかに医師又は看護師に報告し、スタッフ間で情報を共有し、対応している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個々の既往歴、現在の健康状態、治療状況、副作用等は、個人ファイルを通じて全職員が把握するように努めている。 服薬は手渡しで飲み込みを確認する。拒薬がある方には、必要な薬を物に入れて主食のみに入れたり、都度必要な情報は医師にフィードバックしている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	花内石研等で便秘について理解している。1日の水分摂取量計測したり、毎日の生活に体操や散歩を取り入れる。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、スタッフの声掛けや見守りで歯みかき又はうがいを実施。歯ブラシや義歯など個々の状態に応じて保管、清掃、消毒の支援をしている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量は、毎日毎日記録し、栄養バランスは管理栄養士のチェックがある。個々の状態に応じて摂取量が足りない時は、Dr.へ相談している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対策マニュアルに基づき、手洗い・咳やくしゃみの実施、予防接種も利用者とスタッフが全員うけている。(インフルエンザ)		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、冷蔵庫、調理用具の消毒(75%アルコール)を細めに行うようにしている。食材は給食センターから直接届けられる。保管場所にも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>			
90	<b>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物前は、プランターに花を植えることを始めた。ユニットの狭い通路は掃除の細めにし、季節感ある飾りを置くようにしている。建物の入口は、外からのインターホンで顔を確認してから開けようになっているので安全性は高い。	
91 (36)	<b>〇居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホール内の温度や明るさは適度に調整している。換気も昼を付けて行っている。廊下にはイスを置いたり、壁には直近の行事写真を見たり、飾り物を置いたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
92	<b>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フォアから離れた空間にソファとテーブルを設置している。窓辺にイスを置いて、外をのんびり見ていられるようにしたり、思い思いに過ごせる居場所となるよう努めている。	
93 (37)	<b>〇居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、イス等の備品はあるが、使い慣れた生活用品や飾り物などを持ち込んでもらって、居心地よく過ごしてもらっている。	
94	<b>〇換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日に何度か空気の入れ換えをする時を作るよう努めている。温度調節は、利用者の状況に応じ、細めに行っている。	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
95	<b>〇身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	居室、フォア、廊下、トイレ内の手すりは充実している。	
96	<b>〇わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	わかることは、してもらうような見守り、声掛けをする。できたことを「良かった」と思ってもらえる声掛けの工夫や、できない所の介助は、きりげない声掛けをするように心がけている。	
97	<b>〇建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の前には、利用者とスタッフで、プランターに花を植え、暑い時期は、朝、夕と一緒に水やりをしに行き楽しんでいた。ベランダには、雑巾やマットを干してもらったりもしてもらっている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あっぷる
所在地	山口県宇部市昭和町1-9-3
電話番号	0836-35-7689
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 11 月 28 日現在 )

ユニットの名称	あっぷる 2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	0
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢構成	平均 87.6 歳	最低 82 歳	最高 95 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の意義についてしっかり説明した上で、自己評価表を各自に配布し、分担して記入した後、全職員でミーティングを行い管理者がまとめました。
評価確定日	平成 21 年 11 月 28 日

## 【サービスの特徴】

法人母体が医療機関であり、24時間の医療連携がとられ、訪問看護師の派遣もあり健康管理面ではご利用者やご家族の安心、安全が守られています。

1階に託児所、近所に幼稚園があり、散歩中に交流を持つことができます。隣接の公園や寺院、お地藏様への散歩や花見などが楽しめ、環境に恵まれています。地域との交流の中で、その人らしさを大切にし、優しさとぬくもりのあるケアを提供できるよう、ご利用者と接するスタッフが楽しい雰囲気を作り、ご利用者が笑顔で過ごせる時間が長くなるよう支援しています。人と人としてふれあい、一緒に生活していく中でなじみの関係・信頼関係を築き、“あなたが居てよかった”“あっぷるが好きよ”と言ってもらえるグループホームあっぷるでいたいと思います。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		理念についても、もっと深く理解していただけるよう、地域向けのあつがるだよりも発行していきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		銭太鼓の講演を企画し、地域の方々にも案内を配布したが参加してもらえなかった。もっと気軽に立ち寄り頂けるよう工夫していきたい。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		近隣の小学校に小学生に遊びに来て頂けるよう呼びかけを行っているが、まだ実現していないので実現できるよう努めていきたい。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域の独居老人の方をお招きし、ふれあいを持てる機会を企画し、提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義についてしっかり説明した上で、自己評価をミーティングなどを利用し全職員で行っている。また、外部評価の結果をミーティングで話し合い、出た課題を1年かけ取り組み、改善できるよう努力している。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	毎回、自己評価の内容、外部評価の結果を運営推進会議で報告し、参加メンバーと話し合いを行い意見をサービスに活かすようにしている。他のグループホームの施設長様や管理者様に会議のメンバーに入って頂き、意見を取り入れさせて頂いている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険課、高齢福祉課、地域包括支援センター、社会福祉課などに相談し、アドバイスを受けながらサービスの質が向上するよう努めている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	以前、活用しておられた方がいらっしやっただので理解しているが、現在は必要性のある利用者様がいらっしやらないので職員間の話し合いは行っていない。	ミーティングの際などに勉強会を開き、もう一度詳しく勉強していきたい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法や対応の仕方について職場研修で学んだ上で、虐待防止に努めている。また、資料をいつでも閲覧できるようスタッフルームに置いている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約する際は、契約書・重要事項説明書を一つ一つ説明したうえで、疑問点や不安な点をお聞きしてから同意を得るようにしている。将来の事も含め、重度化や看取りについての対応等できること、できないことをご説明し同意を得るようにしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	折に触れて会話していく中で、意見・不満・苦情をお尋ねし、言葉や態度からその思いを察する努力をしている。また、外部者への相談方法も掲示している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		今後は、ご家族に確認印を頂くよう整備していきたい。
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		職員の経験やレベルに合った研修を受講してもらうようにしている。研修に参加した際は報告書を作成してもらい、全職員が回覧し、情報を共有している。2ヶ月に1度、訪問看護師をお呼びし、アドバイスを受けながら勉強会を行い、職員の質の向上に努めている。また、職員の資格取得も支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		同系列の施設との合同の勉強会を、これからは継続して行い、互いにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に、職員が面会に行ったり、ご家族や利用者様に来訪して頂いている。ご希望があれば、体験入所も行えるようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者がどんな事を望んでいらっしゃるかしっかり把握し、望みに合うようなお手伝いをお願いしたりし、一方的に考えや物事を押し付けないように注意している。また人生の先輩として、支援する側という意識をもたず共に支えあえる関係づくりに留意している。		
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の日常の様子、健康状態をこまめにお伝えし、情報交換している。また、ご家族と喜怒哀楽を共にできるように心がけている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご利用者とご家族のより良い関係を築くために行事の参加をお勧めしたり、手作りの絵手紙に言葉を添えて送るなどご家族とのふれあいがもてるように努めている。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	あつぷる近辺の理容院を利用したり、公園、お地蔵様にお参りしたりし馴染みの場所になるように支援しているが、地域に暮らす馴染みの知人や友人の訪問は少なくなってきた。		地域に暮らす馴染みの知人や友人に訪問して頂けるよう呼びかけていきたい。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	席などを決める際は仲の善し悪しも考慮し、職員が調整役となって支援している。ご利用者が孤立してしまわないよう心身の状態や気分など注意深く見守るようにしている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了された方と疎遠になってしまっている。		お手紙を出したりし、より良い関係を続けていけるように取り組んでいきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の個性を尊重するようにしている。ご利用者の思いを言葉や表情から推し測ったり、それとなく確認し、意向の把握に努めている。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りやご家族、入所前の関係者などからとったアセスメントや情報を職員間で共有している。利用開始後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしてきたかを聴いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、必要性が出てきたら運営推進会議の際などを利用して地域包括支援センターと協働していきたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	<p><b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		<p>どんな場面でも冷静に対応し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉遣いや対応をしないよう常に気をつけていきたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		<p>外出時や日々のレクリエーションとして、お化粧療法を取り入れていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61 (23)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月1～2回程度は苑外レクリエーションや買物、外食等が出かけている。地域の行事にも積極的に参加している。公園の花壇の水やりや新聞を取りに行ったりと短時間でも戸外に出る機会を作るようにしている。天気と相談しながら随時、散歩に出かけ、楽しい時間を提供できるようにしている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常会話の中でご利用者が「～に行ってみたいね」と言われた所に苑外レクリエーションなどで行くよう心がけている。普段行けないような場所への外出支援はご家族にも協力を頂き、支援している。		個別外出の機会を作っていきたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、ご協力頂けるご家族には電話をかけ、お話をしている。絵手紙の作品や年賀状、暑中見舞いをご家族に送ったりしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限はなく、誰でも気軽に立ち寄って頂けるようにしている。来訪時には、居心地のよい和やかな雰囲気でお迎えし、居室や談話室に案内し、お茶をお出しするようにしている。再び来訪して頂けるよう、職員からも声かけを行い、面会者を歓迎している事を伝えるようにしている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の宿泊もできるようにソファベッドを用意している。		
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	季節ごとのお花見や、買い物、外食等にはご家族をお誘いし、ご参加いただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束や「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」やスピーチロックやドラッグロック等について職員勉強会で学び、抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけず、扉のセンサー音や、外出されそうな気配を感じたら会話対応をして精神安定を図るようにしている。それでも再三外出されようとするときは、ご家族に電話連絡をし、お話ししてもらおう等のご協力を頂いている。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、リビングが見渡しやすい台所かスタッフルームに一人は職員が居り、見守っている。夜間も2時間ごとに巡視をし、ご利用者の所在や様子を把握している。休憩もリビングや廊下、スタッフルームのソファで行うなど、安全に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ミーティング等で今後予測されるリスクについて話し合っていく必要がある。
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		1月に救急法の講習会の開催を予定している。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		今後も定期的に訓練を続け、確実な避難誘導が出来るように備えていきたい。また、地震、台風、水害時の避難訓練をする必要がある。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬は、一人ひとりの薬箱があり1回分ずつ管理者が責任を持って、分けて入れている。薬箱のふたに薬名、目的や用法・用量・副作用について記載されている紙を貼っている。また、ご利用者の服用薬をまとめたファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、確実に服用していたかだけたか見届けるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫を行っている。		
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング・廊下・談話室・窓際、それぞれに椅子やソファを設置し、過ごす場所を選べるようにしている。		
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた家具や同じ様式の家具、馴染みのある生活用品や装飾品・仏壇・テーブルセット等を持ち込んで頂いている。また、各居室に大きな掛け時計を設置し、居室の入り口にご利用者の顔写真とお名前を貼り、居心地の良い居室になるよう工夫している。		
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度計と、ご利用者様の様子を見たり、声を聞いたりしながら、冷暖房・加湿器・換気で調整を行っている。トイレは汚れていないかこまめに点検・掃除し、換気扇と消臭剤で悪臭がでない工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	居室はご利用者の身体状態に合わせ模様替えなどを行っている。洗面所の手拭タオルなどは、お一人お一人に合った場所に置き、ご自分で取って頂きやすいようにしている。		
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を起こされた姿を見た際は、職員間で報告し合い、話し合いを行い、本人様の不安材料を取り除けるように取り組んでいる。また、わかる力を活かせるような対策を立てるようにしている。		
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダのプランターに花をご利用者と植え、水やりも一緒に行っている。また、リビングから見える場所にプランターを置いている。隣接する公園の花壇にもチューリップやひまわり、マリーゴールド等を一緒に植えたり、水やりしたり、散歩に行った際に観賞したりしている。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない